

ネットワークレポート

資金調達(ファンドレイジング)は私たちNPOにとって永遠の課題と言っても過言ではありません。活動資金を獲得するだけではなく、同時に活動への共感を呼び、支援の輪を広げていくこともまた、ファンドレイジングの意味であり、私たちが取り組む課題の解決につながっていくものだからです。

日本ファンドレイジング協会の前事務局長で、現在は「ファンドレイジングラボ」代表を務めている徳永洋子さんが、こうした手法をわかりやすく解説したハンドブックを出版しました。例えば本書で「人々の共感を呼ぶのは統計データより、たったひとつのストーリー。『誰のために』が見えることが大切です」と述べられています。これは障がいのある人たちと共に活動する私たちにも、大いに参考になる考え方だと思います。多くのNPO関係者にお勧めの一冊です。(編集部)



『非営利団体の資金調達ハンドブック』

徳永洋子著 時事通信社

A5版 240ページ 2,400円(税別)

ご購入は、amazon,時事通信出版局ほか

こんにちは 理事長です



絵：河合真里

2011年度から公立小学校の5、6年生において、歌やゲームなどを通じて英語に親しむ内容の「外国語活動」が必須となっています。来年からは段階的に、小学校3年生からそれが義務化されます。小学校高学年には、今の中学校レベルの英語教育が教科として導入も検討され、3、4年は週1～2回、5、6年は週3回の実施を想定され、小5からの教科には、検定教科書の使用や成績評価も導入するようです。グローバル化しつつある現代社会において、果たしてこの時期からの英語教育は必要なのか、教育現場だけでなく、子供を持つ親の間でも議論が巻き起こっています。業務的にも、いかに英語力が試されるか身に染みてわかっていますが、あえてこの時期に英語を学ぶメリットがあるのか考えさせられます。小学校3年の子供を持つ親として、英語に触れる時期は早いに越したことはないとは思いますが、SNS(携帯やメールなどでの会話)が横行するネットワーク社会の歪みの中で、人とのコミュニケーション能力が減衰し、社会人になっての対話力の無さが叫ばれる今、小学校時代から人と話をする時のマナーやコミュニケーションスキルを身につける必要があるように思います。

認定NPO法人ぱれっと 理事長

相馬宏昭